

原油市況

原油価格（WTI 期近・終値）は、08 年初に一時 100 ドル/バレルとなった後、1 月下旬にはサブプライム問題の波及による米国経済の悪化懸念が強まったことから 90 ドル割れまで低下した。しかし、その後はドル安が進んだほか、世界のエネルギー需要が先行き高まるとの見通しが強まったこと等から原油相場は上昇し、4 月 18 日には 116 ドルを突破、史上最高値を更新した。

米国経済

米国では、住宅市場の調整の長期化に加え、信用不安や雇用減少などを受けて、景気の減速傾向が強まっている。米 FRB は 07 年 9 月以降、政策金利（FF 金利）を計 6 回で 3% 引き下げ、08 年 3 月には 2.25% とした。また戻し税での減税など総額 1500 億ドル強（GDP の 1% に相当）の景気対策法案が 2 月に成立しており、利下げ政策の継続とともにその効果が注目される。ただし、サブプライム問題については、米主要金融機関の四半期決算でサブプライム関連の損失見込み額が市場予想の範囲内に収まったことなどから過度の悲観論は払拭される方向にある。こうしたなか米国の長期金利は 3.7% 台に小幅上昇して推移している。

国内経済

わが国では、雇用情勢や個人消費などで弱い動きが見られるなど、先行き不透明感が強まっている。2 月の鉱工業生産指数（確報）は 05 年基準へ改定された結果、前月比 +1.6% と旧基準速報値の ▲1.2% から大幅に上方修正された。先行き 3 月も前月比 +0.2% と上昇する見通し。また設備投資の先行指標となる機械受注（船舶・電力を除く民需）の月次発表は上下のぶれが見られるものの、直近までは意外にも底堅い。しかし、3 月「日銀短観」の設備投資調査は 5 年ぶりに前年度比マイナスのスタートとなり、その動向には注意が必要。一方、賃金が伸び悩むなか、生活必需品の値上がりにより消費者心理が悪化しており、先行き消費の鈍化が懸念される。

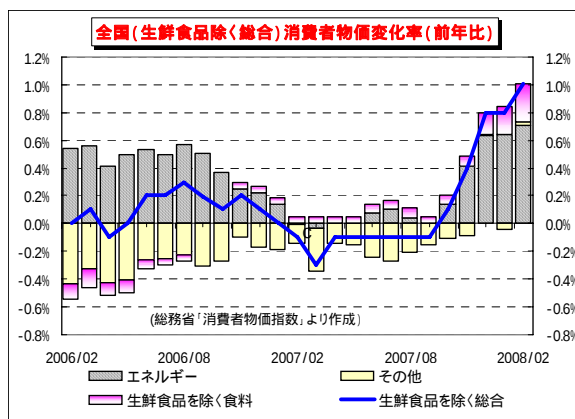
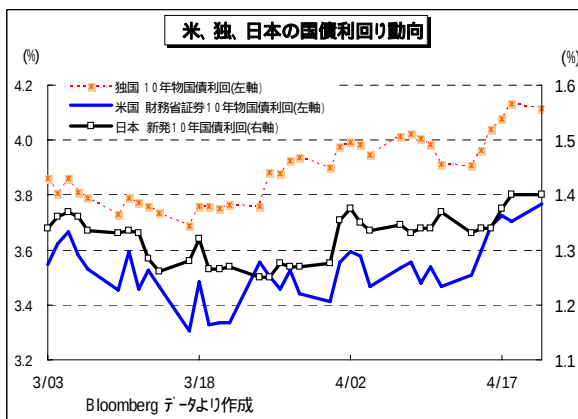
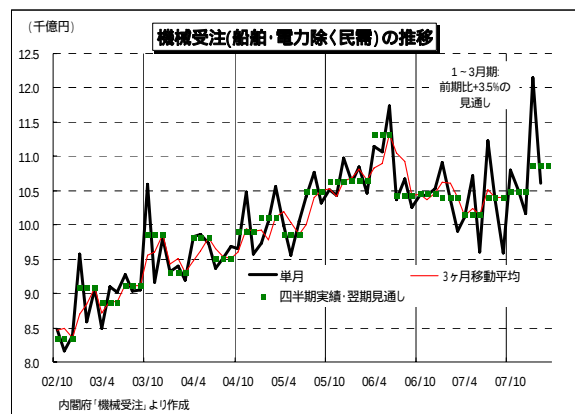
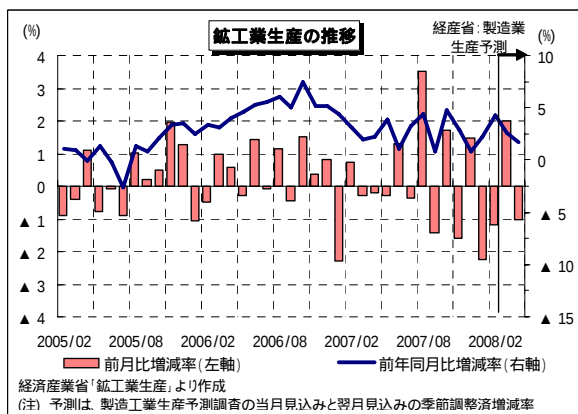
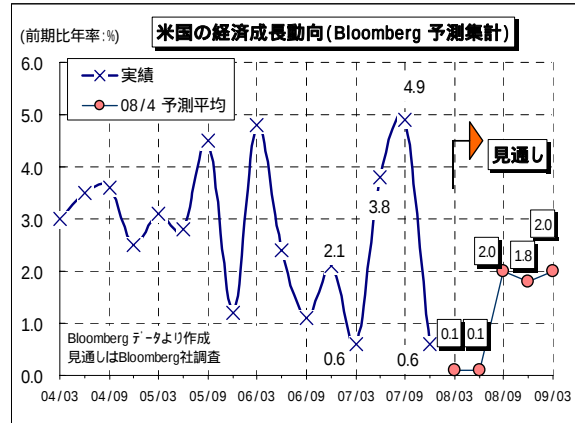
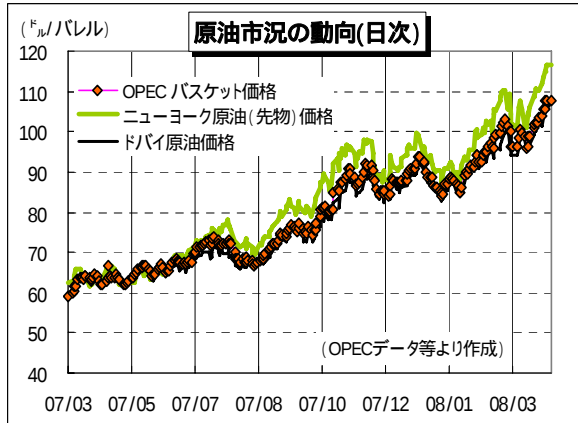
金利・株価・為替

外為市場では、米国の利下げ継続見通しやサブプライム問題に伴う信用不安などから、08 年入り後ドル安が進行。ドル円相場は 3 月中旬に 95 年 8 月下旬以来の円高水準となる 97 円台となったが、このところは 1 ドル = 101 円 ~ 103 円台で推移している。一方、ドル・ユーロ相場は米利下げ継続観測から 2 月下旬に 1 ユーロ = 1.5 ドル台のユーロ導入後初となるユーロ高水準に到達し、4 月中旬には 1.59 ドル台まで上昇。日本の長期金利の目安である新発 10 年国債利回りは、米国の長期金利上昇等から 4 月中旬に 1.4% 台に小幅上昇した。日経平均株価は、世界経済の先行き不透明感や円高進行などから 3 月中旬には 1 万 1,700 円台まで下落したが、このところは米国株価の動向等を背景に 1 万 3,000 円台半ばに持ち直して推移している。

政府・日銀の景況判断

政府は 4 月の「月例経済報告」で景気判断を「回復は足踏み状態」と据え置き。先行きについても「景気は緩やかに回復していくと期待される」と維持。一方、日銀は 4 月の景況判断を「エネルギー・原材料価格高の影響などから、減速している」と、21 ヶ月ぶりに下方修正した。混迷を極めた日銀総裁人事は 4 月 9 日、第 30 代総裁に白川副総裁の昇格で決着。景気減速懸念が強まり、わが国でも利下げ予想が一時強まったが、新総裁の就任会見や信用不安の後退を受けて利下げ予想は弱まっている。（08.4.21 現在）

内外の経済金融データ



(詳しくは、ホームページ-トピックス-(今月の経済・金融情勢) <http://www.nochuri.co.jp> へ)